



さらしなの里



友の会だより

第28号

2013・春



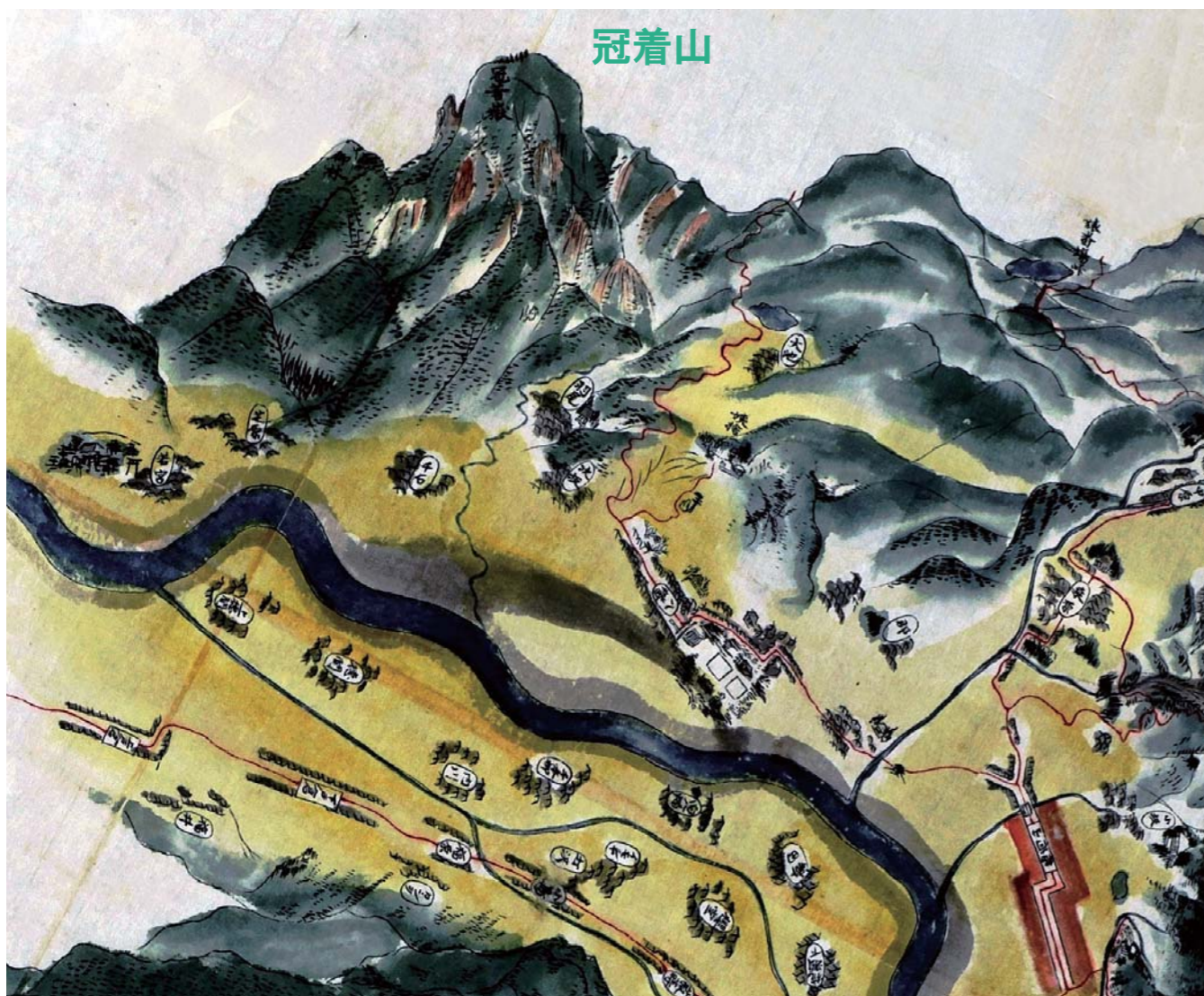
写真撮影：荻原館4代目の荻原健太さん

アンズ畑でさらしなの歌コンサート

天皇皇后両陛下が初めてのプライベート旅行先として4月16日、アンズの産地の千曲市にお越しになりました。アンズ栽培は更級地区も盛んです。両陛下のご来訪に3日先立つ4月13日、大正橋北側、佐良志奈神社横の河川敷のアンズ畑で「恋の里さらしなアンズの花まつり」が開催されました。戸倉上山田温泉の湯上がり美女連さんの踊りや、更級地区の音楽愛好家仲間、さらしな棚田バンドの音楽コンサートで里の春の到来を祝いました。

主催は、「さらしな」が大好きな住民グループ「さらしな会議」（事務局・さらしな堂。「信濃なる千曲の川のさざれ石も君し踏みてば玉と拾わむ」という万葉集の恋の歌をはじめ、JR姨捨駅のスイッチバックの列車の中で恋を適えたご夫婦など、さらしなの里には恋や愛にまつわるエピソードがいくつもあるので、イベントのタイトルでは「恋の里」を強調しました。畑沿いの堤防は歩行者と自転車の専用道（さらしなビュライン）。道行く人も足を止めて、艶やかな美女連さんの装いと踊り、恋をモチーフにしたさらしな棚田バンドのオリジナル曲のギター・マンドリン演奏を楽しんでいました。アンズを初恋の果実に見立てた歌も披露されました。さらしなの里のまさしく野外劇場でした。（演奏曲はさらしな堂のホームページで聞くことができます）

さらしな会議の大きな目的は、地域の経済活動を盛んにすること。会場を提供していただいたアンズ生産加工販売会社をはじめ、自営業者のみならずがテントを張り、里の産物も販売しました。人力車愛好家の方は、来場者を乗せ、里の春の美しさを味わってもらっていました。（大谷善邦）



「信州地震大絵図」の冠着山部分を拡大。右下に稲荷山区の火災（赤い部分）の様子も記載

善光寺地震で崩れた冠着山

拡大版 おらほの冠着

27

今から約170年前の江戸時代・弘化年間、北信地方を中心に8千人以上とも言われる死者を出した「善光寺地震」。戸倉史談会の更級地区在住の会員、大橋静雄さんと北村主計さんがこのほど、当地の冠着山の崩れた様子がよくわかる古地図を見つけた。

左ページの上が下の絵図の赤丸部分を拡大したものです。絵図（横幅4.5）は松代藩が地震後に制作、「信州地震大絵図」とタイトルが付けられ、北は飯山藩から南は松本藩まで含まれ、火災・山崩れ、水害などが色分けされて描かれています。拡大した冠着山の部分は、茶色に塗られた箇所が崩落した所で、いくつかの場所で、崩れていることがよくわかります。児抱岩のあたりも茶色がかっています。相当大規模な崩落です。人が住んでいないところなので文書の被災記録には残らなかったのだと思います。

地震学が専門の信州大学名誉教授で明徳寺住職、塚原弘昭さんによると、善光寺地震のような活断層のずれによる大地震は当地では約千年に一度起きます。東日本大震災の地震も約千年に一度。弘化から千年後は2800年ごろです。そのときはまた各地で山崩れが起きることを覚悟しておく必要がある

松代藩の災害古地図で判明

ります。児抱岩は落ちないでしようか。下の写真は、松代藩主が地震後の被害を写実的な絵に記録した約70枚の1枚で、長野市篠ノ井有旅地区から南方面を見通す構図。冠着山からのびる稜線が崩れた状況が見て取れ、これも崩落の様子を裏付ける貴重な資料だそうです。

大橋さんと北村さんは、冠着山だけでなく千曲地域の善光寺地震の被害状況について調査しており、研究成果は昨年「戸倉芸術文化協会主催の文化祭で発表しました。詳しい内容は戸倉史談会の機関誌「とぐら」第38号に掲載。戸倉図書館で読むことができます。ここに掲載した二つの絵図は、いずれも真田宝物館所蔵です。（編集部、本号はさらしなりの堂のホームページにもアップ。「信州地震大絵図」の細部をご覧になりたい方は、パソコン上でどうぞ）

☆善光寺地震 弘化4年（1847）に発生。塚原弘昭さんによると、規模はマグにチュード7.4。見つかった断層は長野市から飯山まで長さ約50km、断層のずれは平均で2〜3m。善光寺の御開帳期間中のため死者が多数に。各地の山の斜面も崩れ、犀川沿いは土砂でせき止め湖ができ、いくつかの村が埋没。決壊した洪水は川中島方面にも押し寄せた。



「信州地震大絵図」



「有旅村庚申塔辺眺方南方一円図」

南

北

NHKドラマにエキストラ出演



NHK歴史ドラマの撮影が昨年10月、さらしなの里古代体験パークでも行われました。東北を平定しようと北へ攻め上る朝廷軍の襲撃に命を捨て戦った古代東北の英雄の生涯を描く「火怨・北の英雄アテルイ伝」。今年1月から3月にかけて、放送されました。古代人に扮しエキストラで出演したお二人の感想です。(歴史資料館に展示されている編布や編み具などもエキストラ出演しています)

茂手木佐代子さん

(写真右、羽尾四区)

「アテルイ伝」のロケが古代体験パークで行なわれ、村人のエキストラで出演。肌寒さの残る早朝5時集合で、顔・手足にドウランを塗り、蝦夷の衣装にわらじ姿で待機。そこへサングラスにキヤリーカーを引き、大杉漣さんがさつそうと現れ「おはよう!」。さわやか!

3月23日の放映を目を凝らして観ているとアツという間に場面が過ぎ、映つてない!!録画でコマ送りにして探すと村人になりきり走る姿が一瞬間映つてました。

池田智子さん

(写真左、仙石区)

エキストラとして参加させてもらいました。朝廷軍に追われる蝦夷役です。同じシーンを繰り返し撮影し、その度に全力疾走させられました。放映では、その必死な姿は確認できませんでしたが。

幸運なことに、北村一輝さんや大杉漣さんを極く間近で見ることができました。

遺体科学者の遠藤秀紀さんが講演



「死体から解き明かす進化の謎」をテーマに、テレビでおなじみの東京大学総合研究博物館教授で遺体科学者の遠藤秀紀さんが3月16日、さらしなの歴史資料館で講演会を開きました。千曲市杭瀬下の田中和彦さんが感想を寄せてくださいました。

さらしなの里歴史資料館で、遠藤先生の講演会が開催されると聞き、心躍らせながら参加させていただいた。当日は最前列に座り込んで拝聴した。先生の探求心、最新技術、そして何よりも情熱と愛情をもって動物遺体に接していることに感動し、「遺体科学」という分野に共感することもできた。

私は交通事故死した野生動物を解剖して、骨格標本を多数作ってきた。無念の死をとげた動物にもう一度命を吹き込み、教育現場で生徒たちにその真実を伝えたいという思いでやってきた。先生のお話を聞き、臭い汚いと言われても辞められないという思いを確固たるものにできた。最後に、素晴らしい講演会を企画・運営され、更に私にこのような雑文を書く機会を与えてくださったことに感謝申し上げます。

新名称への変更、市側から打診

「縄文体験を強調しては」

さらしなの里友の会の4月の役員会で、千曲市文化財センターからさらしなの里歴史資料館の名前の変更について打診がありました。私は欠席だったので後日、同センター所長の矢島宏雄さんにお話をうかがいました。「歴史資料館」という名称は同じ千曲市内にある「長野県立歴史館」と似ているため、県立歴史館を間違つて訪ねる利用者もいるそうです。さらしなの里歴史資料館が全国に先駆けて提供してきた縄文体験も、各地の施設が行うようになり、リピーターを含む利用者増を図るためには全国へのわかりやすい発信が可能な施設名にした方がいいのではというのが文化財センターの考えです。

市側にはまた名称の変更に合わせて、縄文体験や「さらしなの」の歴史文化などを住民が自ら学び、来館者の体験や学習をサポートするような活動も新たに展開できないかという期待もあるように感じました。市の財政が厳しくなる中、資料館の予算や人員体制も縮小を迫られているのが現状のようです。

市の打診を受け、「さらしなの里縄文館」さらしなの縄文体験館」などが挙がっています。市文化財センターとしては、早ければ来年度からの変更という意向もあるようですが、緊急性があるわけではなく、友の会や地域の住民が、さらしなの里歴史資料館の今後をどのようにしたいのか意向を聞いてから動くことを考えているということです。お考えを、さらしなの里歴史資料館、市文化財センターにお寄せください。(編集部・大谷善邦)